



るうてる

箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージ
と証しー

発行 日本福音ルーテル箱崎教会

代表者 牧師 和田 憲明

〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3

T E L (092) 641-5440 / F A X (092) 641-5480

箱崎教会・恵泉幼稚園 <http://www.jelc.or.jp/hakozaki>

聖ペテロ教会・

奈多愛育園・るうてる愛育園 <https://aiikuen.net/>

CLICK

だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

(コリントの信徒への手紙二 5 章 17 節)

メールによる手紙



【YouTube チャンネル】

対面の礼拝がままならない日々です。けれども、悪いことばかりではないようです。大切なことへの気づきが、聖書から新たに与えられるからです。毎週、教会や園の「おしらせ」に、メールや手紙また電話による相互の交わり、そして「証し」の寄稿をお願いしています。

先日、90 歳を迎えた恩師より、最近繰り返し読んで深い感動を覚えたという一片の詩をメールによる手紙でいただきました。ドイツの往年の牧師イエルク・ツインク (Jörg Zink) の自叙伝『わたしはよろこんで歳をとりたい』(こぐま社) を、おわかしらせてください。

歳をとればとるほど その流れに逆らうものがある
というのは わたしたちの何もかもが 老いてゆくのではなく
人生の終わりに近づくとつれて
新しい何かが わたしたちのうちに始まろうとするからだ

昔から 多くのひとはこう言っている
何か大きな不思議なことが あなたのなかで始まるよ と
まるで 一人の子どもが あなたから生まれ
人生の終わりをこえてつづく いのちになるよ とでもいうように
そしてそれは あなたの魂のなかから 始まる とも
キリストの福音はそれを 新しいひと とよんだ

だから これが起こるための
魂の静かな空間を 大切にしなさい ともいった
変わりゆくものや 日々のごたごた
とりとめのない 夜の思いにそれを満たしてはならないよ と

わたしたちが生きている限り
神はわたしたちに働きかけてくださる
そして 神が働いてくださるところには つねに 新しいこと
力に満ち ゆるし いやすものが育っている
それは わたしたちとて同じだ
神による新しいひとの創造があるのだ

今秋まで 毎週のおしらせに 証し（神さまからの自身への働きかけ）を寄稿くださった方々がおられました
転載の許可をいただいたものを 感謝しつつ おかちします

「あたたかい心」

福留 美弥子

苦しい時、つらい気持ちになった時、私は十字架のことを思い浮かべます。

イエス様が、はりつけになって私達にかわって死んでくださったあの十字架です。

人々は、イエス様を十字架につけました。

最も残忍で、長く苦しまなければいけない十字架は、イエス様にはつらいものでした。

「神様、神様、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれる程、残酷なものでした。

しかし、神様は黙っておられました。

その後、十字架ののろいとは反対に、イエス様を復活させられたのです。

ひとりひとりの心に、イエス様が共にいて下さる復活の約束を果たされたのです。

それが、神さまの愛でなくて何でしょう。

私達を愛してくださる神様は、イエス様をこの世に送ってくださったのです。

それが、祝福でなくて何でしょう。

それを考えると、私の心はあたたかくなります。

神様の愛にふれてあたたかくなります。祝福されよこびに満たされます。

それが、隣の人に伝わります。

神様の愛、あたたかい心、それにいつも私は励まされます。

ローズンゲンの御言葉

板澤 靖男

私は能古渡船場に近い愛宕浜に住んでおり、地下鉄の最寄り駅は「姪浜」です。その姪浜駅の近くに、バプテスト姪浜教会があります。その教会の掲示板に、「ローズンゲンの御言葉」としてかなりの長文が示されているので、私も時々通りがかりに読んでいます。

ローズンゲンは、「籤（くじ）引き」という意味のドイツ語ローズン (Losung) の複数形ローズンゲン (Losungen) です。

宮田光雄著「御言葉はわたしの道の光 ローズンゲン物語」（新教出版社、1998）によって、ローズンゲンの御言葉の由来を見てみましょう。

18世紀にドルスデン（現ドイツ南東部の都市）の領主だったツィンツェンドルフ伯爵時代には、宣教師の海外派遣に当たって、さらには宣教地域から結婚の相手が求められてきた際に、くじを引いて決めた例もあったそうです。伯爵の死後くじ引きの慣習は次第に衰えました。

1731年以來、年末に長老たちの臨席する集会で、多くの聖句の中からくじ引きで、次の年の「ローズンゲン（日ごとの御言葉）」を決めるようになりました。人間の判断による取捨選択でなく、摂理の御手にお委（ゆだ）ねして日ごとの御言葉を決めることにしたのです。

さらに1812年以來、ローズンゲンの聖句は、旧約聖書からくじ引きで決められ、その御言葉に対応する教えを新約聖書から選定することが慣行となりました。

宮田先生は「ヘルンフート（主の守り）兄弟団」という団体を訪ね、その本部管理棟で、ローズンゲンの御言葉の決め方について説明を聞かれたそうです。それによると、その管理棟の特別会議室には、ローズンゲンのため集成された膨大な数の旧約聖書の聖句カードが、たくさんボックスに収められています。兄弟団の指導部メンバー、ヘルンフート教会牧師、ローズンゲン

作成担当者などによる会議が、祈りの後に、来るべき3年後の日ごとのローズンゲンを、順次ボックスから引き出して確定し、この会議の議事録は慎重に記録されるそうです。引き出されたローズンゲンの聖句(旧約聖書の聖句)は、一つ一つ読み上げられます。ヘルンフォート兄弟団から選ばれた特別メンバーが、一つ一つのローズンゲンの聖句に対して相応(ふさわ)しい新約聖書の聖句を選定します。ローズンゲンの聖句に対して相応しいというのは、旧約聖書から決められたローズンゲンのみ言葉の新約聖書的解釈ということだそうです。

1980年3月13日場合を例として挙げれば、ローズンゲンの御言葉は「初めに、神は天地を創造された。(創世記1:1)」この御言葉に対して選ばれた新約聖書の聖句は、「しかし私たちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。(IIペトロ3:13)」

ここには、旧約的約束の新約的実現という形で継続法の特別の形式が、あるいは、第一の創造という始原に対して第二の新しい創造という終末が対比させられている、とみることも出来る。こうしてローズンゲンの注意深い読者は、聖書の証言の多様性にもかかわらず、そこに統一性をくり返し発見するように導かれる。

ローズンゲンと「教えのテキスト」のテーマは、ほとんど常に、イエスの人格と業(わざ)と関わっていることがわかる。

それは、イエスを「罪と死からの解放者・勝利者、あらゆる主の主、宇宙の完成者」と証言している。それは、宗教改革的な見方に一致するものである。と、宮田先生は言われます。

座右の銘

平井 岳洋

ここ10数年ぐらいだろうか、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を使う事が多くなった。私が高校生の頃に「ミクシィ」という日記のようなSNSが流行っていた。SNSは自分の考えや近況、思いを多くの人に知ってもらうためには、うってつけの道具だろう。最

近では「インスタグラム」「フェイスブック」など写真とともにコメントをつけるものもあり、写真が趣味の私は自分の作品を載せていたりする。中でも「LINE」は日本で一番普及しているSNSなのではないだろうか。先日、私の母がシニア向けスマホを買ったのだが、その中に標準で「LINE」が入っているのにはびっくりした。今やSNSは若者の為だけではなく、全ての人に必要な道具になりつつあるのかもしれない。

この「LINE」には自分のプロフィールを載せる機能があり、その中には「ひとこと」という、自分のキャッチフレーズを短文で載せる事ができる。私はそこに、座右の銘である「敬天愛人」という言葉を入力している。

この「敬天愛人」という言葉は西郷隆盛の書が有名で、西郷の発した言葉として知られているが、よく調べると、明治時代に東京大学文学部教授で、貴族院議員だった中村正尚氏の言葉らしい。

中村氏は幕末の日本を訪れた、会衆派教会のアメリカ人宣教師、エドワード・ウォーレン・クラークと生涯の友となり、メソジスト教会宣教師ジョージ・コ克蘭より洗礼を受けてクリスチャンとなった。中村氏はキリスト教と深い関わりがあった人物だと知った。

私がこの「敬天愛人」という言葉に出会った経緯は、実はよく覚えていない。この言葉を知ったのは20代後半ぐらいだっただろうか。とてもキリスト教的で、私が人生を送る上で理想とする「ドンピシャ」な言葉だなと、感じたのは覚えている。そして、「人を愛する」ことを初めて知ったのはいつだろう。恵泉幼稚園で「互いに愛し合いなさい」と聖句を教えていただいたが、正直ピンと来なかった。当時の私は引込み思案で人見知りだった。今思い返せば人が怖かったのだろう。

それから時は経ち、私は大学3年生の時にゆめタウン博多の中にある紀伊國屋書店で販売職の契約社員となった。人に敬意を払い礼節を持って接するということを、生まれて初めて叩き込まれた仕事だった。

この会社の接客指導は百貨店並みに厳しかった。東京の本社から接客教育専門の社員が出張で来福し、接客教育を受けた事がある。始業前には「いらっしゃいませ」「かしこまりました」「少々、お待ちくださいませ」・・・etc.という「接客十大用語」の唱和、接客時の表情の作り方の練習が慣習となっていた。

皆さんご存知だろうが私は仏頂面で、いくら笑顔を作る練習をしても周りからの印象は悪く、お客様から店の掲示板に張り出す「お客様の声」で「愛想がない・冷たい」と書かれた事もあった。

しかし、小売業に限らず、「お客様は神様」なのだ。私は「丁寧・親切な接客」を心がけた。お客様によっては鬱陶しくも感じたのだろうか、カウンターでお客様とやりとりをしていると「まだ、何かあるんですか!!」とひんしゆくをかうこともあった。それでも、私は「丁寧・親切な接客」を心がけ続けた。すると、ある日お客様から「接客が丁寧ですね」と声をかけられた事があった。とても嬉しかったのを覚えている。人から気持ちのこもったお褒めの言葉を戴くのはこうも嬉しいものなのかと。

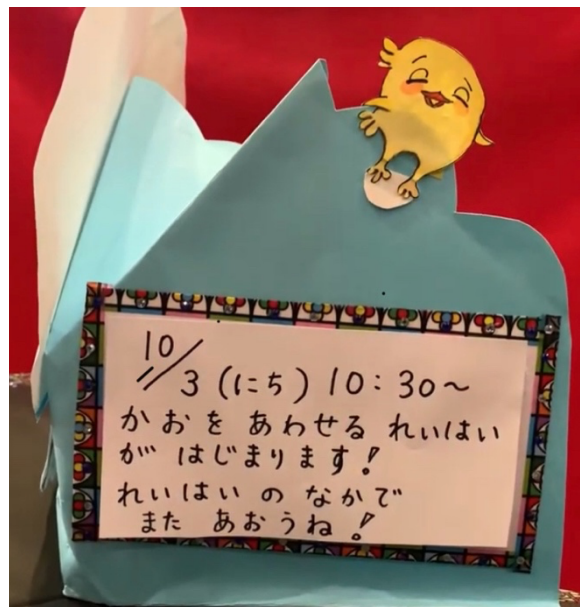
「お客様は神様」この精神と経験が、私に人と接する時は、相手に敬意を払い礼節を持って接するということを教えてくれたのだろう。結婚式でお馴染みの聖句である、第一コリント13章4節～5節「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。自分の利益を求めずいらだたず、恨みを抱かない」この箇所を神は、仕事を通して私にこれを体験させてくれたのだろう。それはきっと、私への霊的なプレゼントだったのだろう。

聖書の言葉は私の人生と心を支えている。しかし、人間は完全ではない。時に理想と反する行いをするのが人間である。先に引用した第一コリントの聖句のように、愛を持って人に接したいが、知らずのうちに、時には意図的に人を傷つけ、愛とはかけ離れた行動をとる。だから、毎週赦しを求めるのだ。

「敬天愛人」天を敬って従い、人を愛する。これは私の人生のテーマなのだろう。

【おしらせ】

- ルーテル教会の「歌う礼拝」(J・Sバッハも生み出した)を体験してみませんか
※ 「ルーテル」は宗教改革者マルティン・ルターのドイツ語読み
- 礼拝は、いつでも(一度だけでも)、どなたでも(信徒でなくとも)自由にご参加できます
- 子どもたちには、教会学校のように「こどもへのおはなし」があり、「祝福」をいたします
- 礼拝の見える隣の部屋を安心してご使用できます【エアコン・音響完備】



※ ぜひ、お越しください ご不明な点は、牧師まで気軽におたずねください